

社会科学習指導案

日 時：平成 27 年 10 月 1 日（木）5 校時

1, 単元名 「戦争と人々の暮らし」

2, 単元について

(1) 教材観

ケ 日華事変，我が国にかかわる第二次世界大戦，日本国憲法の制定，オリンピックの開催などについて調べ，戦後我が国は民主的な国家として出発し，国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。

この内容は，おおむね昭和の時代における主なできごとのうち，日華事変，我が国にかかわる第二次世界大戦，日本国憲法の制定，オリンピックの開催などの歴史的な事象を取り上げ，これらを具体的に調べることを通して，戦後我が国は民主的な国家として出発し，国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かるようにすることをねらいとしている。

「日華事変，我が国にかかわる第二次世界大戦」について調べるとは，例えば，我が国と中国との戦いが全面化したことを取り上げて調べ，我が国が戦時体制に移行したことが分かるようにしたり，また，我が国がアジア・太平洋地域において連合国と戦って敗れたことを取り上げて調べ，各地への空襲，沖縄戦，広島・長崎への原子爆弾の投下など，国民が大きな被害を受けたことが分かるようにしたりすることである。

また，これらの戦争において，我が国は，中国をはじめとする諸国に大きな損害を与えたことについても触れることが大切である。日中戦争，太平洋戦争については，開戦にいたる経緯や国際情勢をつかませ，これらの戦争で国民が大きな被害を受けたこと，日本がちゅうそくをはじめとする他国に大きな損害を与えたことの両面をとらえさせる。

学習に際しては，当時の映像資料や体験者による出版物，証言などを教材化したり，資料館を活用したりしながら，事実のもつ重みを通して時代状況や人々の気持ちに迫ることができるようにする。

戦争中の暮らしについては，変化の様子と戦争の状況とを関連付けてつまませるとともに，世の中の風潮や人々の気持ちを，当時の状況を踏まえてとらえさせる。本単元では，日本が戦争をすることを選び，終戦するところまでを学習する

長い歴史の中の一つとしてとらえるのではなく，日本，海外ともにおおくの人々が犠牲になった事などを知ることによって，国内外の被害の状況について理解することができるようにしたい。

(2) 児童観

《省略》

(3) 指導観

今回の授業では、小グループ活動を取り入れる。交流を通して、考えを深めていくことが目的である。

また、長い歴史の中の一つとして戦争をとらえるだけではなく、「自分事」としてとらえてもらいたい。

そこで、単元の構成は、時間的・空間的・関係的にも遠い東京大空襲や中国との戦争をはじめとし、時間を進めていくごとに、自分の経験と照らし合わせることができる「生活」や「釧路」という学習内容とした。以上の理由から「釧路空襲」を取り上げることとした。実物や資料を通して当時の人々がどのような思いを持っていたのか、という気持ちに迫ることができるようにしたい。そして、時間的・空間的・関係的にとらえることで、思考を育みたい。

加えて、毎時間振り返りの時間を設定する。毎時間学んだこと屋感じたことを記録に残すことで、意識の連続性が図られるとともに、単元が始まった時と、単元の終わりでの考え方の変容を児童・教師ともに見とれるようにする。

最後の8時間目では、それをもとに単元を通して学んだことをまとめていく

(4) 本研究との関わり（小中9年間を見据えた系統的な指導）

本単元の系統性を学習指導要領でとらえると以下のようなになる。

〔第6学年本単元〕

ケ 日華事変，我が国にかかわる第二次世界大戦，日本国憲法の制定，オリンピックの開催などについて調べ，戦後我が国は民主的な国家として出発し，国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。



〔歴史的分野〕

カ 経済の世界的な混乱と社会問題の発生，昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き，中国などアジア諸国との関係，欧米諸国の動き，戦時下の国民の生活などを通して，軍部の台頭から戦争までの経過と，大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。

本単元では、我が国と中国との戦いが全面化したことを取り上げて調べ、我が国が戦時体制に移行したことが分かるようにしたり、また、我が国がアジア・太平洋地域において連合国と戦って敗れたことを取り上げて調べ、各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下など、国民が大きな被害を受けたことが分かるようにする。

中学校では「戦時下の国民の生活」については、身近な地域の事例を取り上げるなどして、戦時体制下で国民の生活がどう変わったかに着目させるとともに、平和な生活を築くことの大切さに気付かせる。

この中項目の学習に際しては、「世界の動きと我が国との関連に着目して取り扱うようにする。また、我が国が多く国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下など、我が国の国民が大きな戦禍を受けたことなどから、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させ「国際、協調と国際平和の実現に努めることが大切であること」（内容の取扱い）に気付かせることをねらっている。

3, 単元の目標

(社会的事象への関心意欲態度)

- ・空襲による被害の様子と現在の様子から、戦争とその時代に生きた人々の暮らしに関心を持ち、資料を調べて積極的に考えようとしている。
- ・戦争の経緯や当時の国民生活に関心を持ち、資料を調べて積極的に考えようとしている。

(社会的な思考・判断・表現)

- ・日本が戦った戦争やその頃の人々の暮らしについて学習問題を考え、表現している。
- ・戦争の状況と人々の暮らしの変化とを関連付けて考えている。

(観察・資料活用の技能)

- ・日本が国際社会の中で孤立していったことや、戦争がアジア・太平洋に広がっていったことについて、写真や地図、年表などから読み取り、まとめている。

(社会的事象についての知識・理解)

- ・戦争がどのように始まったのかや、それが拡大していった経緯を理解している。
- ・戦争で、日本の国民が大きな被害を受けたことや、他国にも大きな被害を与えたことを理解している。

4, 単元計画(8時間扱い)

時	指導目標	活動・思考の流れ	評価の観点				評価規準
			関	思	技	知	
1	空襲による被害の様子と現在の様子を比較しながら、当時の人々の暮らしについて興味関心を高め、学習の見通しを立てることができる。	①東京大空襲の写真を見て気づいたことを話し合う。 ②東京大空襲での人的・物的な被害を調べる。 ③戦争とその時代について関心をもったことから <u>学習問題をつくり、学習計画を立てる。</u>	◎	○			【関】空襲の被害を受けた東京の写真から、戦争とその時代の人々の暮らしに関心を持ち、進んで調べようとしている。(行)(発) 【思】日本が戦った戦争や人々の暮らしの様子について学習問題を考え、表現している。(発)(ノ)

日本と戦争の関わりについて知り、当時の人々がどのようなことを思っていたのかを考えよう

2	<p>日本と中国の戦争が<u>どのよう</u>に始まり、展開していったかを調べながら、<u>国内外の動きや人々の暮らしの変化</u>について学習課題を設定することができる。</p>	<p>①日本が中国大陸に進出していた<u>経緯</u>、<u>満州に渡った人々がどのような暮らし</u>をしていたのかを調べる。 ②<u>満州国建国が国際社会の反感</u>を買い、<u>日本が孤立していったこと</u>をとらえる。 ③中国大陸で戦線が広がり、<u>戦いが長期化していったこと</u>を調べる。 ④日本と中国との戦争がどのようなものだったのかについて考え、まとめる。</p>			◎	<p>【知】日中戦争が始まった経緯と、その後中国全土に戦線が拡大していったことを理解している。(発)(ノ)</p>
3	<p>中国との戦争がその後<u>どのようにアジア・太平洋の各地へ広がっていったのか</u>、その経緯や背景、影響について調べ、<u>整理</u>することができる。</p>	<p>①<u>年表と地図</u>から、戦争がアジア・太平洋地域へと広がっていく経過を読み取る。 ②グラフから、日本とアメリカの<u>航空機生産力のちがいが何を意味するか</u>を考える。 ③<u>戦況の変化や占領地域の人々にあたえた影響</u>について考える。</p>		◎	○	<p>【技】年表や地図から、戦争がアジア・太平洋地域に広がっていったことを読み取っている。(発)(ノ) 【知】戦争がアジア・太平洋地域に広がっていったことの影響を理解している。(ノ)</p>
4	<p><u>戦争中の人々の暮らしの様子</u>を調べ、戦争によって<u>社会や暮らしがどのように変化したか</u>について、考えを深めることができる</p>	<p>①<u>写真や年表</u>から、人々の暮らしが変わっていった様子を調べる。 ②戦争の状況が悪化するにしたがい、<u>資源や物資が不足していったこと</u>をつかむ。 ③<u>標語がつくられた理由</u>と当時の人々の思いを考える。</p>		◎	○	<p>【技】写真や年表から、戦争中の人々の暮らしの変化を読み取っている。(発)(ノ) 【知】戦争中の国の政策が人々の暮らしににあたえた影響について理解している。(発)(ノ)</p>

5	<p>戦時中の<u>子どもたちの暮らしの様子</u>を調べ、<u>子どもと戦争の関係</u>について考えを深めることができる。</p>	<p>①戦争中の<u>子どもたちの暮らし</u>を予想する。 ②資料から、戦争中の子どもたちの暮らしについて調べる。 ③戦争が子どもたちの暮らしにどのような影響をあたえたのか話し合う。</p>		◎		<p>【思】戦争中の子どもたちの暮らしの様子をつかみ、自分たちの日常生活と比較しながら、当時の子どもの思いや願いを考えている。 (発) (ノ)</p>
6 (本時)	<p>釧路を襲った空襲による被害の様子やその時の人々の思いに迫り考えを深めることができる。</p>	<p>①資料から空襲の様子についてとらえ、空襲された被害について予想する。 ②空襲の被害について調べ話し合う。 ③空襲体験者に話を聞いたり、地域に残る戦争遺跡について知り、戦争に対して国民がどのようなことを考えていたのかを考える。</p>		◎	○	<p>【思】空襲によって国民が受けた被害の大きさについて考えて表現している。(発) (ノ)</p>
7	<p>沖縄戦や広島・長崎への原子爆弾投下、敗戦にいたる経緯を調べ、戦争で人々が受けた被害の大きさに気づき、この戦争に対する考えを深めることができる。</p>	<p>①沖縄戦の様子と被害について調べる。 ②広島・長崎に投下された原爆による被害について調べる。 ③日本が敗戦を迎えるまでの経緯について調べ、戦争が、国内外に大きな被害を出して終わったことをつかむ。</p>			◎	<p>【知】沖縄戦や原爆がもたらした被害の大きさについて理解している。(発) (ノ)</p>
8	<p>単元をふりかえり、戦争と人々の暮らしについてまとめる</p>	<p>④「まとめる」(P132)も活用して、単元の目標についてまとめる。</p>	○	◎		<p>【関】今までの学習をふりかえり、考えをまとめようとしている。 【思】学習したことをもとに、この戦争に対する自分の考えをまとめ、表現している。 (ノ) (テ)</p>

5, 本時案

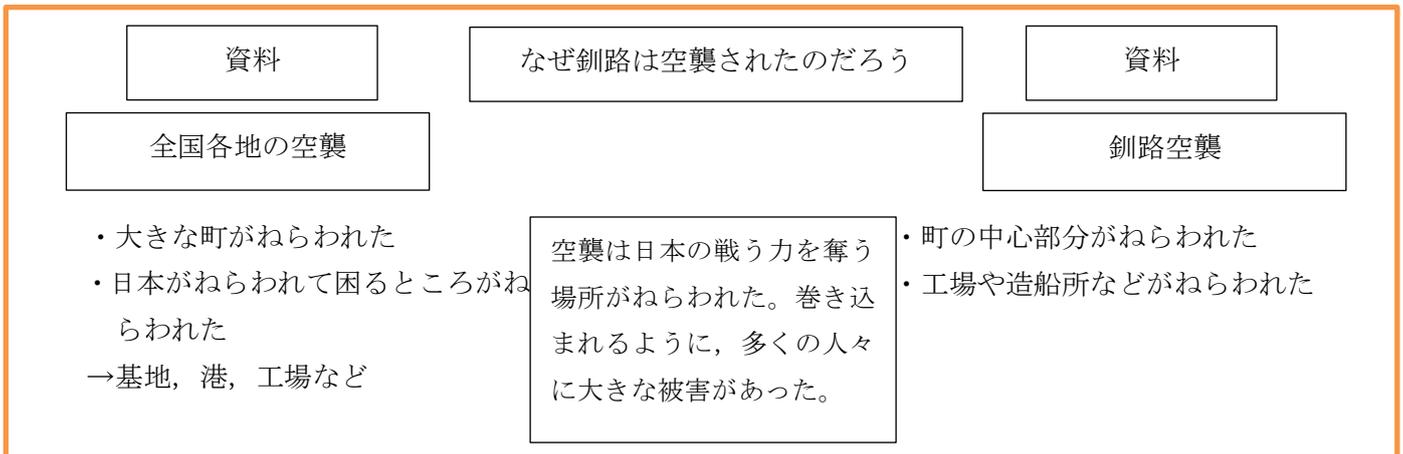
(1) 本時の目標

釧路を襲った空襲による被害の様子やその時の人々の思いについて考え適切に表現している。

(2) 本時の展開 (6 / 8)

	学習活動	■教師の手立て／◇評価・留意点
問 い を 生 む 場	<p>○資料を見る釧路空襲に関わる資料を見る この写真はどこの町だろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京 ・大阪 ・札幌 <p>○写真が釧路についての資料であることを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1945年7月14日の釧路市上空 	<p>■釧路空襲の上空写真</p>
多 様 な 考 え を つ な ぐ 場	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">釧路空襲の被害は人々にどのような影響があったのだろうか</p> <p>○全国各地でも空襲があったことを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空襲があった主な都市は関東や関西中国九州に多い ・東京, 名古屋, 大阪のような大きな町を中心にねらわれている ・基地, 工場, 人がたくさんいるところ <p>○釧路空襲の被害の様子を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場 ・造船所 ・他の地域と同じような理由だったんだ <p>○まとめる</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">空襲は戦う力を奪う場所がねらわれた。巻き込まれるように、多くの人々に大きな被害があった。</p>	<p>■予想を立てさせ、ノートに書かせる。</p> <p>■アメリカ軍の偵察の様子 テレビで画像を映し出す</p> <p>■教科書128ページの空襲都市一覧を見る</p> <p>■小グループでの活動を始める</p> <p>■日本が攻撃されると困るところについて考えさせる</p> <p>■資料を見ながら、被害のあった施設を調べさせる。 資料…当時の北海道の人口がわかるもの 空襲後の地図</p> <p>◇資料から、空襲の理由を見つけ、ノートに記述している—B</p>
見 方 や 考 え 方 を 確 か に す る 場	<p>○実際にその場で空襲を体験した人に話を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そうだったんだ ・命がけだったんだ <p>○被害の様子や、体験を聞いて感じたことを話し合う</p> <p>○今日の学習をふりかえる</p>	<p>■ゲストティーチャーによる話</p> <p>■今までの情報をまとめながら、感想を書く</p>

6, 板書計画



7, 確かな見方や考え方を鍛える授業

本時では、確かな「見方や考え方」を鍛えるために、学習過程に「問いを生む場」、「多様な考えをつなぐ場」、「見方や考え方を確かにする場」を設定し、意図的、計画的に見方や考え方を鍛えていく。

「問いを生む場」では、ずれを生む導入を図る。空襲の被害に合った地域を予想する際、多くの児童が東京都などの大都市を予想することが考えられる。子どものそのような見方や考え方を揺さぶり、自分たちの住む地域である釧路の写真だという事実を伝える。そのことによって、「自分たちが住んでいる釧路でも戦争があったのか。」「なぜ釧路は空襲の被害を受けたのだろうか。」といった問題意識を醸成させる場としていく。

「見方や考え方をつなぐ場」では、方法面の見方や考え方を鍛えていく。全国的に空襲の被害があった地域をとらえ、そこから見えてくるもの、「大きな都市を中心にねらわれて多くの犠牲者が出た。」「基地や工場といった戦うために必要なものが破壊された。」という事実をつかませる。この事実とつなげて、釧路の空襲の被害をとらえていく。「全国における空襲」という社会的事象を関連させて考えることによって、「釧路における空襲」という社会的事象の意味について考えることができる見方や考え方を鍛えていく。

また、「見方や考え方をつなぐ場」では、グループによる話し合い活動を設定する。個の考えを表出させるとともに、それぞれの考えの共通点や差異点を明らかにし多様な考えをつないでいく。

「見方や考え方を確かにする場」では、内容面の見方や考え方を鍛えていく。本単元の中心的概念の中に「長く続いた戦争によって、国民は大きな被害を受けた」という内容面の見方や考え方がある。このことについて、前時までには人々のくらしや子どもたちの様子について学習している。本時ではさらに実際に釧路空襲の被害を受けた方にゲストティーチャーとして協力していただき、当時の様子やその時の心情について語っていただく。写真や地図では感じ取れない戦争による国民の被害について、ゲストティーチャーの生きた言葉で伝えていただくことによって、内容面の見方や考え方を確かにするができるようになる。と考える。

そして、本時終末に取り組む振り返りの記述において、見方や考え方が前時よりどのように変容があったのかを見とっていく。